



高校の教員ら「職業体験」

県内の高校で働く教員ら34人が2月24日、横濱市中区の関内新井ホールで「職業体験」をした。主な参加者は卒業後に就職希望の生徒を指導する教員たち。教員に企業やその仕事内容を知ってもらい、生徒が就職活動をする際のアドバイスに生かしてもらおうという狙いだ。

イベント名は「先生Fes^ス」。高校生の就職活動やキャリア教育を支援するシンジブ（本社・大阪市）が企画した。

今春卒業予定の県内の高校生の就職内定率は81・9%（昨年末現在）。求人増加傾向にあるものの、就職希望の高校生の多くが高校に届く求人票の中から応募する企業を選ぶため、進路指導教員の助言が重要になる。

そのため、「先生が職種を説明できるように企業と交流したり、仕事内容を知ったりする機会のニーズがあった」とシンジブの担当

者。企業側にとっても、学校との関係づくりは人材の確保や、ミスマッチから起こる社員の早期退職を防ぐために必要だという。

この日は県内企業を中心に15社が出展。参加した教員たちは名刺交換をしたほか、測量や製品の組み立てなどの職業体験をした。

川崎市立高津高校（定時制）の松本智春教諭は植木職人の仕事や警備員の装備などを体験した。「実際に体験することで、（企業の）説明もわかりやすかった。会社を知るきっかけになる」

出展した建設業の親和興業（横浜市瀬谷区）は昨年から高卒の採用を始めたという。担当者は「どの業界も人手不足で採用は難しい。まずは先生たちに仕事を知ってもらい、生徒に会社見学に来てもらえようになりたい」と話した。

（小林直子）

次世代の太